

このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

株を安く買うことの効果を「見える化」!

株を安く買うことは、物を買うのと同じで、できるだけ安く買いたいものです。そこで、株を安く買うことがどのような効果を生むかを、数字で「見える化」してみましょう。

人間の心理は、株価が大きく下がると、もっと下がるのではと、不安になります。実は、こういうときこそいい株を買うチャンスなのです。いい株は本来の価値より株価が下げている場合、本来の価値まで戻る動きをします。かのウォーレン・バフェットも言っています。

「マーケットが悲観色で一杯になっている時に喜んで買い、喜びで熱狂している時に恐れて売れ。」

安く買うと、どのように有利かを具体的に見てみましょう。

メットライフという米国最大の保険会社の株を以下のとおり買ったとします。

【A】-2011年6月に100万円で300株買い(株価40.80ドル、為替81円)

【B】-2011年9月に100万円で430株買い(株価29.30ドル、為替77円)

・【A】のみ実行のケース

11年9月末の損益:-32万円

12年3月末(株価37.35ドル、為替82.9円)

現在の損益:-8万円

・【AとB両方】を実行のケース

11年9月末の損益:-32万円

12年3月末現在:+28万円

【A】のみはマイナス8万円ですが、【AとB両方】だと、実に28万円のプラスです!

さて【A】と【AとB両方】を各々実行したケースで、今後メットライフの株価が50ドルに上昇したとしましょう。(為替は現在の80円とします。)

・【A】のみ実行のケース
利益20万円

・【AとB両方】を実行のケース
【A】20万円+【B】72万円 利益92万円

【B】も実行したことにより、【A】だけより、利益は4.6倍になりました! 予想以上に大きな開きになると感じませんか。【B】は同じ金額でも株数が4割以上多くなっているの、安く買った分の戻りとその後の上昇分の利益を、【A】だけより、がっばり多く取り込めるのです。



これが、安く買うことの威力です! いい株が安くなったら「しめしめ、おかげで安く、しかも株数を多く買える!」と、むしろ喜んで買うべきなのです。これを長年実行していることにより、ウォーレン・バフェットは巨万の富を作り出し、S&P500株価指数を大幅に上回るパフォーマンスを続けているのです。

これは、皆さんにもできることです。ぜひ、今度いい株が大幅に安くなったら、実行しましょう!

急成長のフェイスブックがよいよ上場へ

フェイスブック(Facebook)が、5月18日に米国ナスダック市場に上場する見通しです。2004年にハーバード大学学生だったザッカーバーグが、女子学生証をハッカーし、写真を並べて勝抜き投票させるサイトを作ったのが始まりで、急速に全米の大学、高校に広まったとのことです。チュニジアやエジプトのジャスミン革命を成功させたのも、フェイスブックの伝播力が多大な影響を持ったといわれています。

いまでは世界にユーザーは9億人を数え、現在もユーザー数は拡大の一途です。日本は2月現在220万人程度とまだまだ少ないのですが、伸び率は週率8%以上で、世界でも2位の高い伸び率で広まりつつあります。実名やプロフィールを登録するため、投稿にも真面目さや発言への責任が感じられ、バーチャルではありませんが、独特のコミュニティを形成しています。私、尾藤 峰男もフェイスブックの愛好者です!



2011年フェイスブックの売上は37.1億ドルで、2012年は61億ドル予想となっています。時価総額は750億ドルから1000億ドルと見込まれ、IPO(新規上場)での資金調達には、インターネット関連では最大の100億ドルを計画しています。ヤフーやグーグルとの競争を加速すべく、調達資金を新規広告サービスに投入していく予定です。市場の注目度は高く、公開株価や上場初値に注目が集まっています。

今月の言葉:

いやしくも人間としての自覚があるものにとって、情熱なしにならざるは無価値である。

-マックス・ウェーバー

弊社から皆様への情報提供ソース:

びとうファイナンシャルサービス公式ホームページ

<http://www.bfsc.jp>



毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ!

申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

書評ブログ-平日毎日更新

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

Web サイトもご覧ください

<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒105-0022

東京都港区海岸1-2-20 汐留ビルディング3階

電話 : 03-6721-8386

携帯 : 090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072

電子メール : info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを
-びとうファイナンシャルサービスの大切な役割

人口減少・高齢化が株式市場に与える影響は驚愕的!

国立社会保障・人口問題研究所の2060年までの日本の将来推計人口によりますと、わが国の人口は、2010年から2060年までの50年間で、2010年人口1億2080万人から実に32.3%減、4132万人の減少が見込まれます。(中位推計)

特に、年少人口(0-14歳人口、減少率53%)、生産年齢人口(15-64歳人口、減少率46%)の減少が大きく、老年人口(65歳以上人口)は2948万人から3464万人へ逆に17.5%も増えるのです!これは10人に4人は高齢者という、まさに世界にかつてない超高齢化です。2040年には人口減少は年100万人に及び、実に和歌山県が毎年1つずつ消滅するほどの規模の人口減少が続くというのです。

ピーター・ドラッカーがいうとおり、人口動態ほど先行きを読める指標はありません。そしてGDP成長は以下の等式からなっていて、生産年齢層の増加が重要な要素になっています。

GDP成長

$= 0.75 \times \text{生産年齢層の増加} + 0.25 \times \text{資本投入の増加} + \text{労働生産性の増加}$

この式の生産年齢層は、2060年には、2010年から46%減るといいますから、わが国の先行きを暗いものにします。また、労働生産性は、生産年齢層、特に20~30歳代の若い年齢層が増えない

と上がらないという点も忘れてはいけません。

最近発行の米国の有力な投資理論誌の論文で、2011年から2020年の日本の実質1人当たりGDP成長率、株式リターン、債券リターン(いずれも年率)を人口動態により分析したところによりますと、下のような驚くべき影響が見えてきます。なお、GDP成長率、株式・債券リターンの数値は、日本の長期平均値からの乖離幅です。成長率やリターンの絶対値ではないのでご注意ください。

GDP成長率 年率 -5.2%

株式リターン 年率 -9.6%

債券リターン 年率 +1.8%

GDP成長率と株式リターンは、他の先進国に比べ、ダントツに大きなマイナスになっています。日本の人口動態が株式市場や日本の経済に及ぼす影響が、今後顕著に現れてくることを危惧されます。なんととしても、長期に、実質的に人口を増やす政策をあらゆる面から導入していく必要があります。

株式投資を行なうにも、長期的な観点で、このあたりを十分に認識して臨むことが求められます。



第15回『退職金や金融資産をしっかりと運用するためのセミナー』を開催します！

—こうすればセカンドライフを豊かに過ごすことができる—

大切な資産運用で、本当のことを知るのはいへんむずかしくなっています。いい情報も危ない情報もあふれ、手数料収入を何とか取り込もうとしてリスクの高い金融商品売り込む金融機関や証券会社、FX会社、商品先物会社の営業活動はますます激しくなっています。思わぬリスクの高い商品を勧められ、取り返しの付かない損を被ることも珍しくありません。

日本の将来が不透明感を強める中、国の制度や周囲に頼ることはできません。自分でしっかり判断して、人生を切り開いていく必要があります。資産運用もまさにその通り。このセミナーで、他では絶対に聞けない、人生を安心して過ごせる「正しい資産運用法」をぜひ学んでください。きっとかけがいのない時間となることでしょう。

30年以上の経験と資産運用で頂点のグローバル資格を持つ、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザー尾藤峰男だから語れる「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します！

◆ このセミナーで「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」がわかる！ ◆

～参加無料 限定10名～

日時：2012年5月26日(土) 15:00～17:00

場所：TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームC(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml>

(最寄り駅：有楽町・日比谷駅)

申し込みは、下記メールまたは電話にて「5月26日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

E-メール： info@bfsc.jp

Tel: 03-6721-8386



講師：尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

プロフィール：

米国CFA協会認定証券アナリスト、CFPR、日本証券アナリスト協会検定会員、1級FP技能士、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーとして、個人の金融資産や退職金の運用助言・ライフプランニングサービスを提供する。2000年当社設立。グローバルな投資理論や外国株投資・国際分散投資への造詣が深い。日本経済新聞、週刊東洋経済、日経マネーなどへのコメント多数。日経CNBCにもたびたび出演。著書に「いまこそ始めよう 外国株投資入門」日本経済新聞出版社。投資助言・代理業として関東財務局登録。